様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年　6 月 21 日現在

機関番号：47701
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2009～2011
課題番号：21730150
研究課題名（和文）　アメリカの南ベトナムへの介入と南ベトナム解放民族戦線の対応

研究課題名（英文）　American policy toward South Vietnam and responses of National Liberation Front of South Vietnam

研究代表者
福田　忠弘（FUKUDA TADAHIRO）
鹿児島県立短期大学・商経学科・准教授
研究者番号：50386562

研究成果の概要（和文）：1959 年のベトナム労働党による第 15 号決議以降、南ベトナム解放民族戦線がアメリカの介入に対してどのような対応をしたのかについて分析を行った。特に焦点をあてたのは二点である。第一に、北ベトナムから南ベトナムへの補給ルートについて。第二に、1968 年のテト攻勢の第二波、第三波がどのような意図のもとに行われたのか、である。

研究成果の概要（英文）：This research aims to examine how National Liberation Front of South Vietnam responded to American intervention after Resolution 15 of Vietnamese Worker's Party in 1959, mainly focusing on the supply route from North to South and the second and the third phase of Tet offensive in 1968.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,500,000	450,000	1,950,000
２０１０年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１１年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：国際関係論
科研費の分科・細目：国際関係史
キーワード：ベトナム戦争、ベトナム労働党、ベトナム南北分断、北緯 17 度線、南ベトナム解放民族戦線、ベトナム共産党、ホーチミンルート、テト攻勢

１．研究開始当初の背景

1954 年のジュネーブ会議によって、ベトナムは一時的に南北に分断されることになり、2 年後の 1956 年に南北ベトナムでの統一選挙が予定されていた。しかし、統一選挙は実施されず、南北分断が固定化されていったのは周知の事実である。

1954～58 年まで、ベトナム民主共和国（いわゆる北ベトナム）のベトナム労働党中央は、ベトナム国（のちのベトナム共和国、いわゆる南ベトナム）との統一にあたり、南ベトナム政府の憲法と法律の枠内での政治闘争をその方針としていた。しかし 1959 年に、政治闘争とともに武力闘争も行っていくという第 15 号決議が出されてから、ベトナム情勢は激変していった。

1959 年 5 月には、その設立年月にちなんだ 559 部隊が設立され、チュオンソン（アンナン）山脈内を通る補給ルート（いわゆるホーチミンルート）の建設が開始された。南ベトナムでの武力闘争への補給が急務となったからである。

1960 年 12 月には南ベトナム解放民族戦線が設立され、南ベトナム政府、そして介入の

度合いを深めるアメリカに対しての抵抗運動が激化していった。

しかし当時、南北ベトナムが分断されていた状況下にあって、北ベトナムのベトナム労働党中央と南ベトナムの南ベトナム解放民族戦線をはじめとする解放勢力の間には、南ベトナムでの武力闘争の方針を巡って見解の相違があったことが明らかになっている。にもかかわらず、現在のベトナムの首都ハノイでは、ベトナム共産党（当時のベトナム労働党）が党中央の指導の正しさを強調する資料が発刊されている。その一方、当時戦闘が行われていたベトナム南部（当時の南ベトナム）におけるベトナム戦争の調査を行っていくと、ハノイで出される公式見解とは異なった事実や資料に出会うことが多くある。しかしこうした、当時の南ベトナム解放民族戦線を中心とした出来事は、共産党の公式解釈に適合するように「変更」されることが多々あるのである。

例えば、かつて南ベトナム解放軍司令を務め、1975 年 4 月 30 日のサイゴン陥落に貢献したチャン・ヴァン・チャーの著作に対する改ざんである。チャン･ヴァン･チャーは、1982 年『鋼鉄の B 戦区の歩み・第 5 巻・30 年戦争の終結』［Trần Văn Trà, *Những Chặng Đường Lịch Sử của B2 Thành Đồng, tập 5, Kết Thúc Cuộc Chiến Tranh 30 Năm* (NXB Văn Nghệ Thành Phố Hồ Chí Minh, 1982)］という回想録を出版した。チャン･ヴァン･チャーはその著作で、ベトナム労働党中央の正しさのみを強調するのではなく、南ベトナム各地で活動していた地方組織の役割も見直すべきだと主張し、ベトナム国内でも注目を集めた。さらにサイゴン陥落は当初予定していたというよりは、偶発的な要素が大きく作用したとも記述していた。しかし、発売から 2 週間でベトナム共産党によって発禁処分にされたのである。しかし 2005 年になって、発禁本を含む、チャン･ヴァン･チャーが生前に執筆した原稿が、選集『30 年戦争の終結』［Trần Văn Trà, *Kết Thúc Cuộc Chiến Tranh 30 Năm* (NXB Quân Đội Nhân Dân, 2005)］という形で再出版され、ベトナムの書店に並べられることになった。表紙には南ベトナム解放民族戦線の旗も印刷されていた。再出版された選集には発禁処分とされた叙述の回想録も含まれていたが、内容が一部改ざん、削除、変更された。これなどが最たるものである。

こうした当時の北ベトナムのベトナム労働党中央の見解を相対化しつつ、現在のベトナム南部に存在する資料を利用しながら、南ベトナム解放民族戦線をはじめとする解放勢力が、深まるアメリカの介入に対して、どのような対応をしたのかを明らかにしたい、ということが本研究の背景である。

２．研究の目的

本研究の目的は、アメリカが介入を深めるなか、南ベトナムにおける南ベトナム解放民族戦線をはじめとする解放勢力が、どのような対応をしていったのかを明らかにすることが目的である。

ただし、ベトナム戦争は長期にわたる戦争であったために、本研究では主に以下の 2 点に焦点をあて分析することを主要な目的とした。

（1）1959 年 5 月にホーチミンルートを整備する部隊（その設立年月にちなんで 559 部隊と呼ばれる）が創設された。アメリカ軍の本格介入後、アメリカ軍の最大の軍事目標の一つとされたのがホーチミンルートの破壊であった。しかし、南ベトナムでの戦闘遂行のための補給という観点からみた場合、ホーチミンルートは全体のなかの一部でしかない。そこでベトナム戦争中、北ベトナムから南ベトナムへ、また研修などを受ける目的で南ベトナムから北ベトナムへの、ヒト、モノ、カネの補給ルートがどのようなものだったのか、その全体像に迫ることが本研究の第一の目的である。

（2）1968 年 1 月のテト（旧正月）に、南ベトナムの解放勢力は当時の南ベトナムの首都サイゴンにおいて奇襲攻撃をおこなった。いわゆるテト攻勢である。サイゴン市内では解放勢力がアメリカ大使館を数時間にわたって占拠し、その様子が全世界に報道された。さらに、南ベトナム政府警察庁長官が解放戦線のメンバーを路上で射殺するシーンが全世界に流れ、アメリカの世論はもとより世界中に衝撃を与えた。中部の都市フエでは約 1 ヶ月にわたって戦闘が継続された。この結果、アメリカでは大規模なベトナム反戦運動が巻き起こり、当時のジョンソン大統領は 68 年 3 月、北爆の部分停止と大統領選挙の不出馬を表明した。さらに同年 5 月には、パリでのアメリカと北ベトナムの第一回会談が開かれ、ベトナム戦争は新しい局面に入っていくことになった。

テト攻勢は、後のベトナム戦争の帰趨を決定づけた事件であった。日本や欧米諸国では、テト攻勢というと 68 年 1 月に行なわれた第 1 波のみを指すことが多いが、ベトナムではテト攻勢は第 1 波から第 3 波までを指す。そしてベトナムでは第 2 波、第 3 波は失敗だったと評価されることが多い。この全 3 波をテト攻勢として捉え、テト攻勢がどのような性格のものだったのかに焦点をあてる。特に、失敗だったと評価された第 2 波以降がなぜ発動されたのかについて検討を行うことが目的である。

３．研究の方法

研究の方法については、上述した２つの研究目的に対応する形で言及する。

（１）南北ベトナム間の移動に関しては、これまでチュオンソン（アンナン）山脈内を通るいわゆるホーチミンルートに焦点があてられて研究されることが多かった。これはベトナムでも同様で、最近になっても『ホーチミンルート』［*Đường Hồ Chí Minh* (Nhà Xuất Bản (NXB) Chính Trị Quốc Gia, 2007) ］や、『ホーチミンルートの記録』［*Hồ Sơ Đường Mòn Hồ Chí Minh* (NXB Lao Động, 2010) ］などの書籍が発行されている。

しかし、2008 年にベトナム人研究者の故ダン・フォンによる『５つのホーチミンルート』［Đặng Phong, *5 đường mòn Hồ Chí Minh* (NXB Tri Thức, 2008)］が出版された。この著作では、ホーチミンルート以外の南北ベトナム間の移動ルートについても総合的に言及されている。そこでこの著作に依拠しながら、その記述について他の資料で裏付けを取るという作業を行った。

同時に、当時のホーチミンルートの跡を実際に訪問し、調査を行った。

（２）テト攻勢第一波終了後、なぜ第二波が発動されたのかについて検討した。ただし、ベトナムでは失敗と評価されるている事件についての資料公開は限定的である。そこで、これまであまり注目されてこなかった、1968 年 3 月 10 日に、中国にいるホー・チ・ミンから当時第一書記を務めていたレ・ズアンに出された手紙（以下、「ホーの手紙」と略す）に焦点をあてて、その内容分析を行なった。「ホーの手紙」が出された時期は、テト攻勢の第一波が終了し、第二波が始まる前にあたり、主な内容は、ホー・チ・ミンが「南ベトナムを訪問し、解放勢力を鼓舞したい」という希望を表明するものになっていた。

本研究では、現在ベトナムで５つの形態で存在する「ホーの手紙」を比較し、それぞれの内容を確認した。５つの形態とは以下の通りである。

第一に、ベトナムで刊行されている『ホー・チ・ミン全集』に掲載されているもの。全 10 巻からなる同全集が出版されたのは 1980 年代で、「ホーの手紙」が所収されている第 10 巻は 1989 年に出版されている（以下、『全集初版』と略す）。この『全集初版』では、ホー・チ・ミンの手紙、発言、新聞や雑誌、書籍に掲載された記事などがまとめられている。この『全集初版』に所収されているのは直筆の「ホーの手紙」をタイプで打ち直したものである。その後、1990 年代になって、同書の第二版全 12 巻が出版されている（以下、『全集第二版』と略す）。「ホーの手紙」については、『全集初版』と『全集第二版』でその内容に違いはない。

第二に、ベトナムで刊行されている『ホー・チ・ミン略伝』（以下、『略伝』と略記する）に所収されているものである。『略伝』は全 10 巻からなり、1993 年から順次刊行された。「ホーの手紙」は第 10 巻に収録されている。

第三は、ベトナム南部にある博物館での展示品である。筆者が調査したところ、ホーチミン市にある「ベトナム南部女性博物館（Bảo Tàng Phụ Nữ Nam Bộ）」と、フエにある「ホー・チ・ミン博物館（Bảo Tàng Hồ Chí Mih）」に直筆の「ホーの手紙」のコピーが展示されている。両博物館の「ホーの手紙」の内容は同じものだが、ホー・チ・ミンの署名の有無などに違いがある。また、「ベトナム南部女性博物館」の展示物は白黒だが、「ホー・チ・ミン博物館」の展示物はカラーのもので、ホー・チ・ミンが赤のインクを用いて強調していた箇所が分かる。上述した『全集』と『略伝』では、タイプで打ち直されたものが所収されているだけなので、比較の対象として両博物館にある展示物は重要な意味を持つ。

第四に、「南部中央局博物館（Di tích lịch sử - văn hoá Căn cứ Trung Ương Cục Miền Nam）」についての解説書（ベトナム語と英語が併記されている）である。この博物館は、ベトナムとカンボジア国境近くに拠点を持ち、当時ベトナム戦争の指導を行っていた「南部中央局」についての博物館である。この解説書のなかに直筆の「ホーの手紙」（白黒）が掲載されている。ここでの「ホーの手紙」と、フエの「ホー・チ・ミン博物館」のものの内容は全く同じであるが色だけが違う。また「女性博物館」のものと内容は同じだが署名の有無が異なっているだけである。「南部中央局博物館」の資料も重要である。資料に付されている注において、「ホーの手紙」中に暗号名で呼ばれている人物が誰なのかが明らかになるからである。

その後、「ホーの手紙」に書かれている内容について仮説を立て、その仮説を検証していく作業を行った。

４．研究成果

（１）ベトナム戦争中の南北ベトナム間の移動および補給ルートについて言及した。従来、南北ベトナム間の移動および補給ルートとして注目されてきたのは、チュオンソン山脈内を通るチュオンソン山脈ルートであったが、このルート上のヒト、モノ、カネの流れにのみ注目していては不十分であり、それ以外のルートを含めた全体像を明らかにすることが重要であることを指摘した。そこで、ダン・フォンの『5 つのホーチミンルート』に依拠して、南北ベトナム間の移動および補給ルートを総合的に把握する視角の重要性を確認すると同時に、同書の内容の検討を行

なった。
　ダン・フォンが「5つのホーチミンルート」としてあげているのは、「チュオンソン山脈ルート」、「パイプライン」、「海上ルート」、「第三国経由ルート」、「送金網」の５つのルートである。本報告書では、これまで知られている「チュオンソン山脈ルート」以外の事実について紹介する。
　「パイプライン」について、1968年4月から設置が開始されたこと、最終的には中越国境から南ベトナムのビンフック省ブーザーマップまで5,000キロのパイプラインが設置されたことが明らかになった。
　「海上ルート」については、15号決議以降759 部隊が設置され、後に海軍直属に改組された125部隊が任務にあたった。海上ルートについては戦況や時期によって、「間接輸送」や「公開化、大衆化、現地化」など、さまざまなルートと手法が考案されていた。
　「第三国ルート」は主にカンボジアを経由するルートについて明らかにした。カンボジア国内の越僑に組織させたK委員会が、カンボジアを通るルートに関しては主要な役割を果たした。
　最後に「送金網」については、現金を直接運ぶ AM 方式、世界の金融機関のサービスを利用するFM方式があった。
（２）1968年3月10日に北京にいるホー・チ・ミンからハノイにいるレ・ズアンにだされた手紙の内容分析をすると同時に、その手紙の内容と関連する資料から、なぜテト攻勢第二波が発動されたのかについての分析を行った。その際に、「ホーの手紙」の中で言及されている「第三幕」、「適切な時期」とはどういった意味なのかについての仮説を提示し、検討を行った。
　「ホーの手紙」では、「第三幕開始の準備をしている時」が、ホー・チ・ミンにとって南ベトナムを訪問する際の「適切な時期」と言及されている。この「第三幕」が何を意味するのか、「適切な時期」とはどのような時期なのかについて、5 つの仮説を提示し、それぞれの仮説について検討を加えた。
　その結果、「第三幕」とは軍事闘争（大都市への攻撃）、政治闘争（民衆の総蜂起）に続く外交闘争を意味していて、外交交渉を有利に導くために、国際世論やアメリカの国内世論に訴えかけるようなインパクトのある軍事行動が企画され、それがテト攻勢第二波発動につながったのではないかという推論を立てた。この推論を証明するために、当時、南ベトナムに滞在していたレ・ドゥック・トの動きに焦点をあてて分析を試みた。種々の資料から、レ・ドゥック・トの南ベトナム派遣は単なる軍事行動の計画立案、実行、評価ではなく、外交交渉の打ち合わせと、外交交渉を有利に進めるために追加的な軍事行動の必要性の説得にあったのではないかという推論も導き出した。
　以下に掲げる論文に、その成果をまとめて執筆した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
福田忠弘「ベトナム南部委員会（1954～61年）についての資料公開とその問題点」『研究年報』（鹿児島県立短期大学地域研究所）第 41 号、2010年、査読なし、97～103ページ。
http://ci.nii.ac.jp/naid/40017120587

福田忠弘「テト攻勢第一波と第二波間にだされたホー・チ・ミンからレ・ズアン宛の手紙についての内容分析－テト攻勢第二波発動に関する試論」『研究年報』（鹿児島県立短期大学地域研究所）第 42 号、2011年、査読なし、97～114ページ。
http://ci.nii.ac.jp/naid/40018839978

福田忠弘「ベトナム南北分断以降の南北ベトナム間の移動および補給ルートについて－ダン・フォン『５つのホーチミンルート』を中心に」『研究年報』（鹿児島県立短期大学地域研究所）第 43 号、2012年、査読なし、85～97ページ。

６．研究組織
(1)研究代表者
福田　忠弘（FUKUDA　TADAHIRO）
鹿児島県立短期大学・商経学科・准教授
研究者番号：50386562

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：